

【生活トレンド研究所レポート】
All About の「家事」、「家電」、「リフォーム」ガイド総勢 6 名が徹底分析
「梅雨の家事」に関する調査を実施
 ～住まいの“カビ盲点”は「冷蔵庫内」、「寝室」、「子ども部屋」～
 ～「部屋干し」は大気汚染や主婦の多忙化、節電面から今後も続く傾向に～

株式会社オールアバウト(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長 兼 CEO:江幡哲也)が運営するマーケティング・チャンネル「生活トレンド研究所」は、第六弾のレポートとして、総勢6名のガイドを研究員に迎え、株式会社エム・データが作成した「梅雨の家事に関するTVでの話題」資料などをもとに「梅雨の家事」に関するアンケート調査を実施しました。調査協力は、株式会社マクロミル。調査期間は2013年4月9日(火)～2013年4月11日(木)、25～49歳の既婚女性1,000名から有効回答を得ました。

【調査結果のポイント】

1)		<p>「家事・掃除・子育て」ガイド／藤原 千秋氏</p> <p>住まいのカビ盲点！ カビの警戒ポイントは「冷蔵庫内」や「寝室」、「子ども部屋」</p> <p>カビが繁殖しないように気をつけているポイントで、「お風呂場の床や壁(71.9%)」、「キッチンの水周り(53.5%)」が上位を占めていましたが、実は食中毒に直接影響しやすい「冷蔵庫内」や長時間動き回ることなく過ごす「寝室」や「子ども部屋」が要注意ポイントです。</p>
2)		<p>「家事」ガイド／毎田 祥子氏</p> <p>「大気汚染対策や多忙な主婦の増加」、「節電面」から部屋干しは今後も続く傾向</p> <p>梅雨の洗濯物干し方法について「部屋干し(42.8%)」が「乾燥機」等の方法を大きく引き離れたことが、これは今後も続く傾向であると推察します。</p>
3)		<p>「収納」ガイド／すはら ひろこ氏</p> <p>本来くつろぎたい場であるリビングが“家事スペース”と化している!?</p> <p>部屋干し派のリビングは、ほぼ毎日のように洗濯物が吊るされていることが明らかになりました。(梅雨時に部屋干しする際に干す場所は「リビング(54.0%)」が1位。)</p>
4)		<p>「リフォーム」ガイド／Yuu 氏</p> <p>注目すべきは「洗面所」。家事効率がぐんと上がります！</p> <p>「洗濯やアイロンがけが手早くできるようになる専用スペース(=ユーティリティ)」の有無をきいたところ、41.9%が「今はないが、いずれは欲しいと思っている」と回答。洗面所を家事室として見直すことで毎日の暮らしが快適になります。</p>
5)		<p>「家電」ガイド／戸井田 園子氏</p> <p>エアコンのない居室空間こそ除湿機が非常に有効！</p> <p>カビやニオイを気にしている場所として、「風呂場」、「キッチン」、「洗面所」など水周りだけでなく、「押入れ」、「玄関」などを挙げている人も多数いましたが、こうしたエアコンなど空調設備のない空間こそ、除湿機は非常に有効です。</p>
6)		<p>「節約」ガイド／矢野 きくの氏</p> <p>「ニオイ」は元から退治する！臭ってから換気では、後手後手です</p> <p>ニオイの対処法として一番多かったのが「窓を開けるなどして換気をする(61.8%)」でした。それはその場しのぎの対処で、ニオイの元となっているものを解決しようとしているものではありません。</p>

■“梅雨どきの家事”で昨年最も多くテレビに取り上げられたのは「洗濯」。次に「カビ」

株式会社エム・データ(※)が2011年5月1日～2011年6月30日、2012年5月1日～6月30日に「梅雨の家事」に関する話題から主な出現キーワードを調査した結果(※)、「洗濯」が14番組、「カビ」が13番組と多数の番組で出現していることがわかりました。

この結果を受け、今回「生活トレンド研究所」では All About で活躍している各ガイドに協力いただき、“洗濯(特に干し方)”や“カビ”、その他“ニオイ”に関する調査を実施いたしました。

※株式会社エム・データ…テレビ放送を独自にテキストデータベース化(TVメタデータ化)して、調査・分析・配信を行っている、2006年に設立された「データプロバイダ/リサーチカンパニー」。 <http://mdata.tv/>

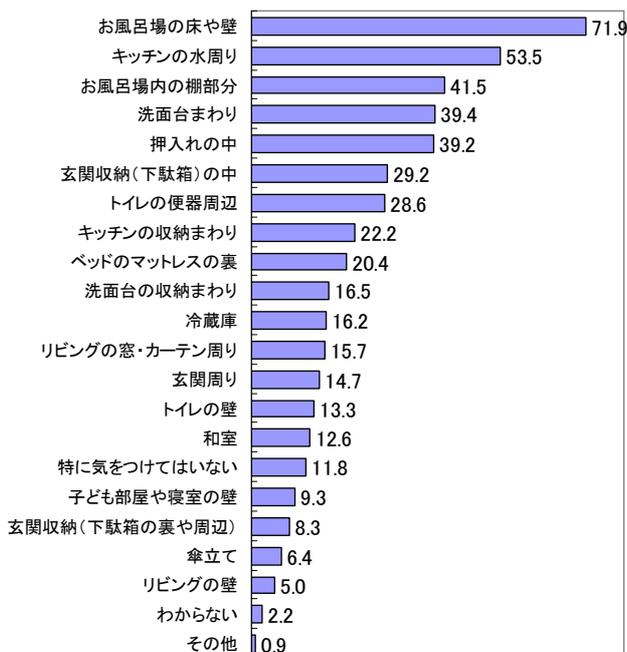
	2011年	2012年	2011→2012 トレンド		2011年	2012年	2011→2012 トレンド
エアコン	2番組	3番組	↑	ジーンズ	0番組	1番組	↑
洗面所	1番組	2番組	↑	ニオイ	5番組	5番組	-
浴室	2番組	6番組	↑	湿気	2番組	2番組	-
キッチン	5番組	8番組	↑	部屋干し	4番組	4番組	-
洗濯	9番組	14番組	↑	生乾き	1番組	0番組	↓
押し入れ	1番組	1番組	-	カビ	4番組	13番組	↑
玄関	1番組	3番組	↑	ダニ	2番組	2番組	-
カーテン	1番組	1番組	-	菌	4番組	4番組	-
バスタオル	1番組	1番組	-	除菌・殺菌	3番組	2番組	↓
まな板	1番組	0番組	↓	除湿	3番組	5番組	↑
調理器具	1番組	0番組	↓	消臭	3番組	0番組	↓
布団	1番組	1番組	-				
ラグ	0番組	1番組	↑				
食器	0番組	1番組	↑				
靴	0番組	1番組	↑				
タオルケット	0番組	1番組	↑				

*NHK 総合、Eテレ、日本テレビ、テレビ朝日、TBS、テレビ東京、フジテレビ(全て東京キー局発の番組を対象)

M Data (エム・データ調べ)
TV番組・CMデータ分析・調査

■住まいのカビ盲点！カビの警戒ポイントは「冷蔵庫内」や「寝室」、「子ども部屋」

グラフ1: 梅雨時、カビが繁殖しないように気をつけているところ(n=1,000)



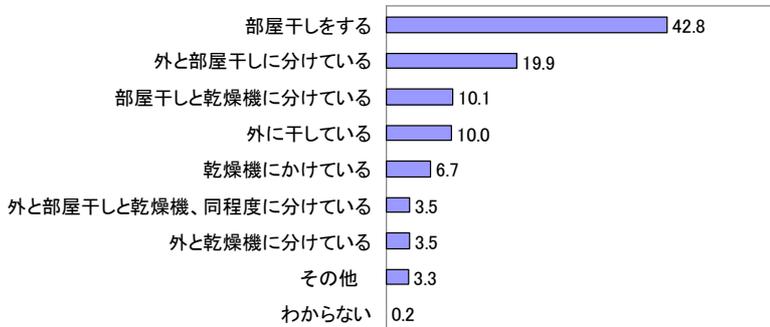
今回の調査で、「梅雨時、カビが繁殖しないように気をつけているところ」を聞いたところ、「お風呂場の床や壁(71.9%)」、「キッチンの水周り(53.5%)」、「お風呂場内の棚部分(41.5%)」といった水周りが多く挙げられました。この結果を受け、『家事・掃除・子育て』ガイドの藤原千秋氏は次のように解説しています。

「カビ＝水回り」という固定観念が強く浮き出たという印象です。でも住まいのカビの害として注意しなければならないのは、見た目の不快感より、アレルギー一症状や食中毒など健康面での問題のほう。ですからカビの警戒ポイントとして、本来短時間しか滞在しないお風呂場などよりも、むしろ食中毒に直接影響しやすい“冷蔵庫内”や、長時間動き回ることもなく過ごす“寝室”や“子ども部屋”に意識を向けなければなりません。このあたりの情報の周知、注意喚起の必要性を強く感じました。」

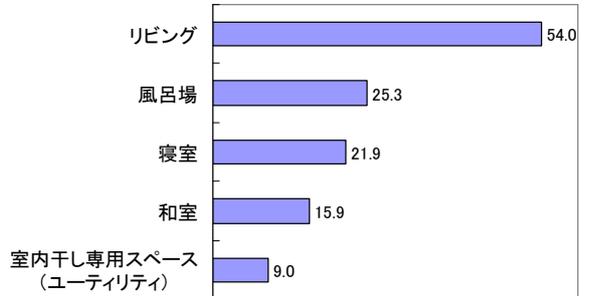
■「大気汚染対策や多忙な主婦の増加」、「節電面」から部屋干しは今後も続く傾向

次に、梅雨時の洗濯について聞いたところ、42.8%が「部屋干し」をすると回答していました(グラフ 2)。また、「部屋干し」をすると回答した人全員に対し、干す場所を聞いたところ、半数以上(54.0%)が「リビング」と回答していました(グラフ 3)。

グラフ2: 梅雨時の洗濯物 (n=1,000)



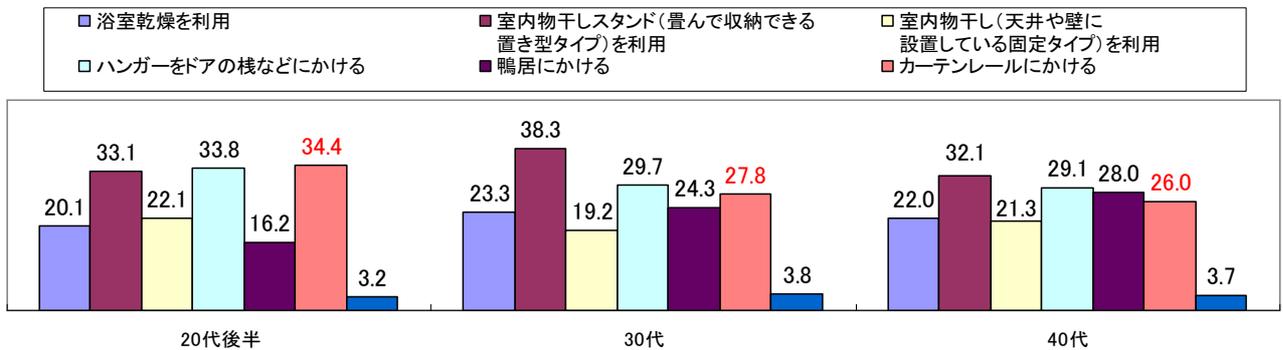
グラフ3: 梅雨時に部屋干しする際に干す場所TOP5 (n=763)



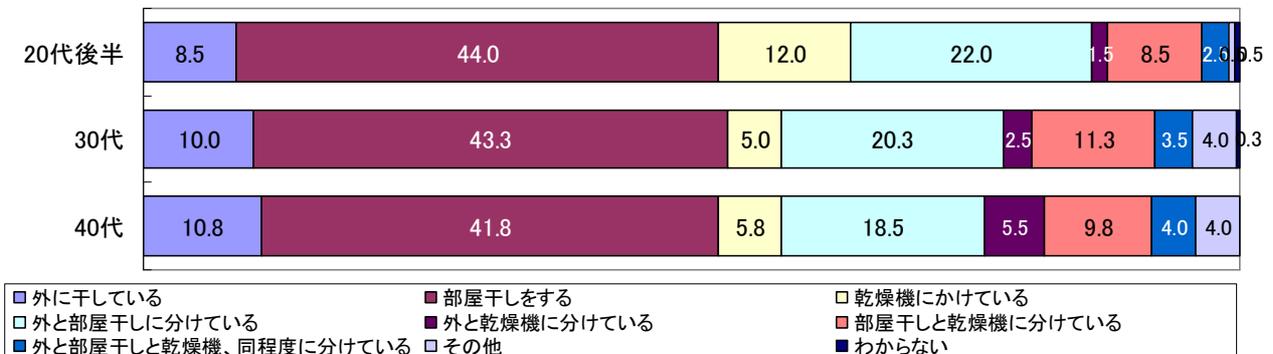
これらの結果を受け、『家事』ガイドの毎田祥子氏は次のように解説しています。

「梅雨の洗濯方法について“部屋干し”派が乾燥機等の方法を大きく引き離してトップですが、大気汚染対策や多忙な主婦の増加及び節電といった面から“部屋干し”が今後も続く傾向であると思われます。20代においては、部屋干しにおける常識である『カーテンレールに干さないこと』がまだ認知されていない様子です(グラフ 4)。カーテンレールに干してしまうと、水を吸った洗濯物の重みでレールが歪んでしまう可能性があるから避けたほうが良いでしょう。一方で乾燥機は、少数派ながら他の世代の倍の割合で活用している様子(グラフ 5)が目立ち、これは家事力の熟練とともに変化するのか、または「乾燥機主流」が定着、増加するのか、今後の様子を見守りたいですね。」

グラフ4: 梅雨時の洗濯物を干す際の干し方 (20代後半=200、30代・40代=各400)



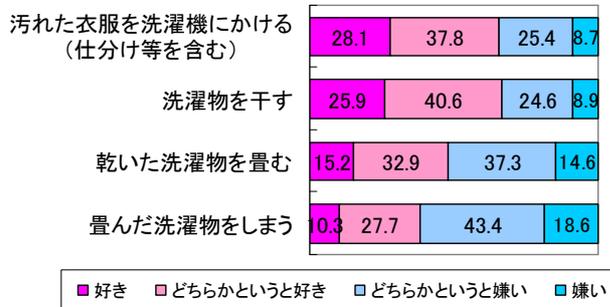
グラフ5: 梅雨時の洗濯物の乾かし方 (20代後半=200、30代・40代=各400)



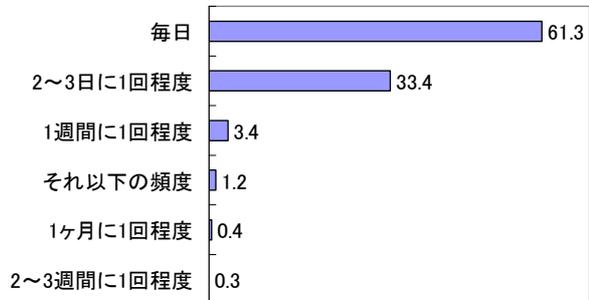
■本来くつろぎたい場であるリビングが“家事スペース”と化している!?

梅雨の家事に関する質問のほかに、「各家事の好き嫌い」(グラフ 7)、「各家事の頻度」(グラフ 8)について聞いたところ、特に「洗濯機にかける(計 65.9%)」、「洗濯物を干す(計 66.5%)」については「好き」「どちらかという好き」と回答した人が多く、さらに毎日洗濯をしている人が 61.3%もいることがわかりました。こうした結果を受け、『収納』ガイドのすはらひろこ氏は次のように解説しています。

グラフ7: 家事の好き嫌い (n=1,000)

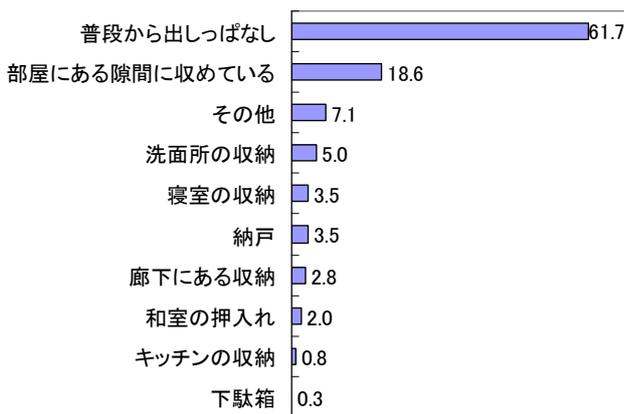


グラフ8: 洗濯(洗濯機にかける・干す) (n=1,000)



「気持ちよく部屋干しがしたい。そんな潜在的なニーズが透けて見えてきます。部屋干し派のリビングは、ほぼ毎日のように洗濯物が吊るされていることが明らかになりました。(グラフ 8、グラフ 3)その際に使われている道具は、折り畳み式の置き型スタンドが多い一方で、ドアの棧やカーテンレール、鴨居を利用するなど吊り下げられる箇所をくまなく使いこなしていることが分かります(グラフ 4)。都市部の住宅事情からすれば、洗濯の分量と干せる場所との兼ね合いから、リビングを使わざるを得ないわけです。また、部屋干しに使う道具をしまうためにもスペースが必要になりますが、たとえ折り畳み式であっても、収納場所を捻出するのも困難なこと。結果としてリビングに出しっ放しになりやすいのは、無精だからとは言いきれません(グラフ 9)。

グラフ9: 梅雨時の部屋干しグッズの収納場所 (n=397)



家の中で散らかりやすい場所のトップに挙げられるのがリビング。特に梅雨時ともなると蒸し暑い不快感に加えて、視覚的にもうっとおしい空間で過ごす家庭が増えそうです。片付かない悩みにつながる部屋干し対策は、家事術と住まいづくりの両面からのアプローチが必要なのと言えます。」

■注目すべきは「洗面所」。家事効率がぐんと上がります！

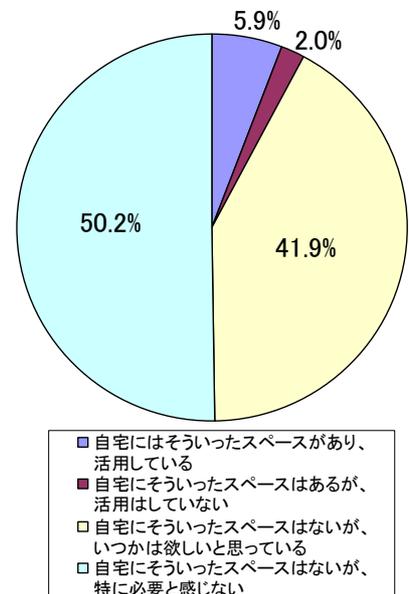
家事を行う場所について、“ユーティリティ(=「洗濯やアイロンがけが手早くできるようになる専用スペース」や、「家事を集中して済ませることができる便利なスペース)」の有無を聞いたところ、41.9%が「今はないがいずれ欲しい」と回答していました。この結果を受け、『リフォーム』ガイドのYuu氏は次のように解説しています。

「最近では梅雨や花粉や黄砂、PM2.5などの外的要因に加え、働く主婦の夜洗濯が増えるなど、洗濯物の部屋干しが増えています。しかしそこで困るのが室内干しスペースです。

今回のアンケートでも、梅雨時の部屋干し実施率(※合計)は76.2%にも上るのに対し、干している場所で圧倒的に多いのはリビングで、しかも多くの人が室内物干しスタンドを出しっ放しにしているなど、スペース確保に困っていることがわかります。

今の時代で求められているのは、やはり家事がラクな家でしょう。『あなたが現在住んでいる家には、いわゆる“ユーティリティ”はありますか?』という問いに対し、半数が「今はないがいつかは欲しい」と回答しています。(グラフ 10)

グラフ10: “ユーティリティ”の有無 (n=1,000)

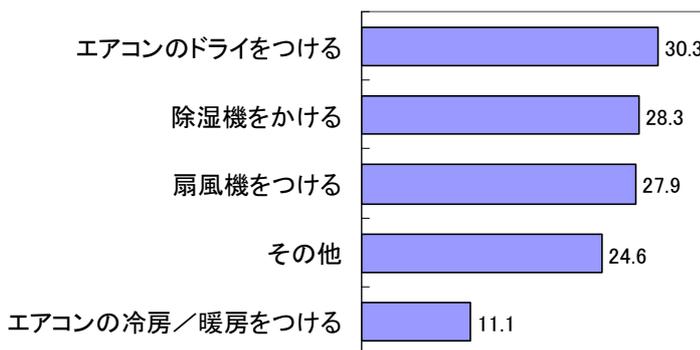


そこで注目したいのが洗面所です。洗面所はパウダールーム+脱衣室に加えて、洗濯機があれば家事室としての機能が求められる多機能ルームです。

例えば、洗濯機を洗面所から出して専用家事室を作る、室内干しスペースを近くに設ける、たたんでしまふクローゼットまでの動線を見直す、アイロンかけスペースを作る、そして炊事などの他の家事との連携を考えるなど、洗面所の家事機能を見直すことで、家事効率はぐんと上がります。洗面所はキッチンや浴室に比べて後まわしにされやすいスペースですが、家事室として見直すことで毎日の暮らしが快適になります。」

■エアコンのない居室空間こそ除湿機が非常に有効！

グラフ11：梅雨時に部屋干しする際使う家電(n=763)



部屋干しをしている人に対して、何か家電等を使用しているかを聞いたところ、30.3%が「エアコンのドライをつける」と回答していました(グラフ11)。この結果に対し、『家電』ガイドの戸井田園子氏は次のように解説しています。

「毎日洗濯をしている人が6割を超え、洗濯物を乾かす方法は室内が多くなっています。しかし、洗濯乾燥機の使用は少なく、吊して干す人が大半です。これは、乾燥時にシワがつくこと、アイロン手間が増えること、電気代

が増えることなどを気にしているのではないかと予想されます。また、干し場としては、リビングに干す人が50%を超えています。部屋干し対策として利用する家電は、エアコン・除湿機・扇風機がほぼ同率で差がなく、室内干しならコレ！といった定番家電が決まっていないことが伺えます。このような状況にも関わらず、洗濯に関係する家事は好まれている傾向があり、大きなストレスを感じていないのも興味深い結果だと思いました。

また、湿気によるカビやニオイを気にしている場所として、風呂場・キッチン・洗面所など水回りだけでなく、押入れ・玄関などを挙げている人が多くいました。このように、エアコンが無い居室以外の空間こそ、除湿機は非常に有効です。最近の除湿機は、部屋干し機能の強化にばかり注目され「衣類乾燥機」のような売り方になっていますが、「押入れモード」や「玄関モード」など、分かりやすい使い方の提案をすれば、さらに購入ニーズが高まるのではないかと感じました。」

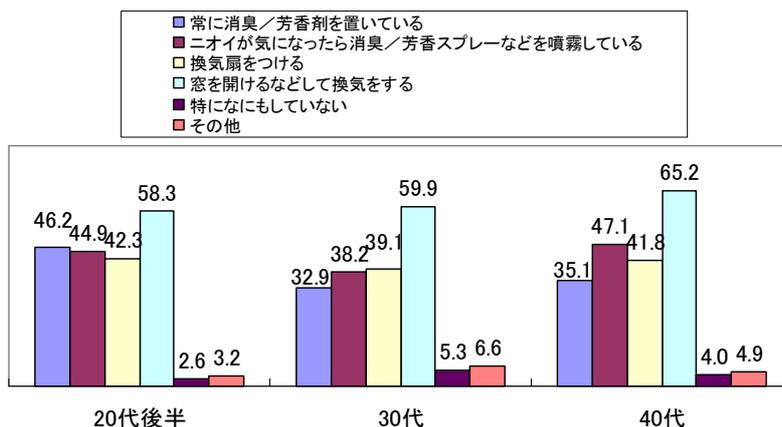
■「ニオイ」は元から退治する！臭ってから換気では、後手後手です

梅雨時にニオイが気になるところについて聞いたところ、「お風呂場の床や壁(37.2%)」、「キッチンの水周り(33.3%)」など、カビが生えないように気をつけている場所と同じところが挙げられていました。また、そのニオイ対策についても聞いたところ、全年代で「窓を開けるなどして換気する」が一番多かったものの、その次に多かったのは20代後半の「常に消臭/芳香剤を置いている(46.2%)」という結果となりました。この内容を受け、『節約』ガイドの矢野きくの氏は次のように解説しています。

グラフ12：梅雨時、ニオイが気になるところ TOP10(n=1,000)



グラフ13：ニオイ対策(n=1,000)



「今回の調査結果で分かったことの一つに、梅雨時の家事ではニオイやカビなど鼻や目など体で感じられるものに関しては敏感であり、それに対してのなんらかの対処をしようとしていること。しかし、その対処方法として一番多いのは『窓を開けるなどして換気をする』というもので、実はこれはその場しのぎの対処となってしまうっており、ニオイの元となっているものを解決しようとしているものではありません。要するに、なぜニオイが発生してしまうのかという理由まで理解している人が少ないため、それに対応する家事をすることができずに、臭ってきたから換気をするという後手後手の家事になってしまっているというわけです。

さらに 20 代後半は『消臭／芳香剤』の使用率も他の年代より若干高いという傾向もありますが、近年は消臭剤、芳香剤の市場も爆発的に伸びてきているため、それらを使えばとりあえずニオイはしなくなるという、やはりその場限りの対処方法で済ませてしまっていることが伺えます。

家事の中には、原因をしっかりと理解すれば、それを防ぐことができるものも多くあります。正しい知識を得ないまま、その場限りの家事で済ませてしまっているの、かえって同じことの繰り返しとなり家事労働が増えてしまっているのではないのでしょうか。」

■調査概要

- ・調査期間： 2013 年 4 月 9 日(火)～2013 年 4 月 11 日(木)
- ・調査対象： 25 歳以上 50 歳未満の既婚女性(マクロミル会員)
- ・有効回答数： 1,000 件
- ・属性： 25～29 才有職／専業主婦 各 100ss、30～34 才有職／専業主婦 各 100ss、
35～39 才有職／専業主婦 各 100ss、40～44 才有職／専業主婦 各 100ss、
45～49 才有職／専業主婦 各 100ss
- ・調査方法： インターネットリサーチ
- ・調査機関： マクロミル

「生活トレンド研究所」について http://allabout.co.jp/trend_lab/

「生活者のトレンドと未来をひも解くマーケティング・チャンネル」であることをミッションに掲げ、総合情報サイト「All About」で活躍する住宅、マネー、健康、グルメ、一般消費財等、様々な領域における専門家(＝ガイド)が研究員となって、企業と生活者がより良い関係性を構築するための調査、市場分析を行なっていきます。その分野における高い専門性はもちろんのこと、生活者・実務家としての考えや想いも兼ね備えた「All About ガイド」ならではの分析・考察を重ねることで、表面的な定量データでは捉えられない新たな潮流や課題を浮き彫りにしていきます。

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先：

株式会社オールアバウト 広報担当： 柏原、大竹

TEL:03-6362-1309 FAX:03-6682-4229 E-mail: pr@staff.allabout.co.jp

《引用・転載時のクレジット表記のお願い》

本リリースの引用・転載の際は、必ず「生活トレンド研究所の調査」である旨を示すクレジットを明記していただけますようお願い申し上げます。